

公表 事業所における自己評価総括表(保育所等訪問支援)

○事業所名	児童発達支援センターうめだ・あけぼの学園		
○保護者評価実施期間	2025年11月4日		2025年12月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32人	(回答者数) 14人
○従業者評価実施期間	2025年10月21日		2025年11月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7人	(回答者数) 6人
○訪問先施設評価実施期間	2025年11月14日		2025年12月15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象施設数) 52事業所 (対象人数) 61人	(回答数)	22人
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月10日		

○前回の自己評価についての振り返り

支援の充実を図るために取り組んできたこと、成果として考えていること	ガイドラインの読み合わせなどを通して、制度のことや実際の保育所等訪問支援時の動きなどを職員間で確認する時間を設けました。また、ガイドラインについては職員がアクセスしやすいように保管し、都度確認できる状態にしました。保護者の方への周知についてはセコムメールや紙面、貼り出しなど複数の媒体を使って発信をしています。
改善が不十分だったこと、さらに取り組みが必要なこと	訪問先あるいは保護者の方への保育所等訪問支援の制度についての周知はまだ不十分なようです。職員も熟知しわかりやすく説明できるように努めていきます。また学園のことを訪問先を知っていただけるための工夫はもっと必要だと考えています。

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、発達や行動の特性等に応じた専門性のある支援を提供しています。	・勉強会やスーパーバイズなどの機会を持ちながら訪問職員の資質向上に努めています。 ・学園ではチームアプローチを実践しています。学園で療育を担当している職員と訪問職員との連携を適宜行ない、保育所等訪問支援の幅を広げています。	引き続き訪問支援における職員の資質向上をはかっていきます。勉強会やケース会議、情報交換の場を定期的に設けていきます。
2	訪問支援員は支援に対して広い知識・技術を持ち、園への助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものとなっています。	・保育所等訪問支援に限らず、学園では関係機関との連携と協働を大切にしています。そこでは「関係機関の園の先生達の実践を十分に知る」「園の文化を大切にする」視点を大切にしています。その視点が「その園で取り入れやすい方法」のご提案につながっていると考えます。 ・上司も含め相談をしながら進めています。	現在実施している、学園内での研鑽は継続していきます。加えて、他の事業所の保育所等訪問との情報交換、保育所等訪問支援ガイドラインをもとにした勉強会なども設けていきます。
3	保護者の方に事業の目的を丁寧に説明しています。	・重要事項説明については説明用スライドを用いたり、説明を動画で配信し、何度も視聴いただけるようにしています。 ・お子さんの所属する関係機関での過ごしについて折に触れて保護者の方と話題にしており、保育所等訪問支援の目的である「お子さんの適応支援」についての大切さを共有しています。	・保育所等訪問支援についての各種お知らせを、学園での児童発達支援を利用している時に積極的に配信していきます。 ・お問い合わせの窓口の職員と保護者の方や関係機関がアクセスしやすい工夫をしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動概要や連絡体制などの情報を発信しているかという問いに対して保護者の方から「いいえ」「わからない」という評価をいただいています。	活動概要などについては個々のご報告が中心となっています。学園での保育所等訪問支援の実施状況やトピックスなどを配信する機会は限られています。	児童発達支援を並行して受けている方が多いことが特徴ですので、児童発達支援の機会も活用しながら保育所等訪問支援についての活動概要やトピックスを発信する機会を設けます。いくつかのツールを用いながら進めていきます。
2	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されたかという問いに対して約3割の訪問先施設の方から「どちらともいえない」という回答をいただきました。	学園での様子と合わせて園の中で取り組むことについてのご提案も積極的にさせていただいています。ご提案内容については少し短いステップにする、その提案に至る根拠のご説明などご提案する際の説明を丁寧にするなどが必要があると考えます。	年間で定期的に訪問するという特徴をいかし、前回の情報交換の話題が次につながるよう努めていきます。施設との連携を強めていき、困りごとが軽減しない時にも次の手立てと一緒に考えられるような関係性を構築していきます。
3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)や保育所等訪問支援ガイドラインを踏まえながら支援をしているかという問いに対して従業者と保護者の方から「わからない」「いいえ」という回答をいただきました。	個別支援計画の作成とモニタリングを通して年間で計画を立てながら支援をすすめています。ですが、年間を通した計画立てが十分でない、あるいは職員と年間計画の共有が十分でないことが想定されます。	個別支援計画を年間で定期的に作成しています。その際にPDCAサイクルと保育所等訪問支援ガイドラインをふまえた作成をしていきます。職員と定期的な勉強会、情報交換の機会を持ちます。

第三者による総括・ご意見 *第三者評価実施年度のため、ガイドライン自己評価について、第三者による総括等は実施しません。

担当者氏名・所属		評価会議実施日	
----------	--	---------	--

ご意見を踏まえた対応	
------------	--